

【大鹿村】 1人1台端末の利活用に係る計画

2026年1月

項目	内容	※留意事項
①1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿	<p>学校のICT活用において、子供同士が協力し合い、共に課題解決に取り組む協働的な学びを深める上でも有効である、共同編集ツールやプレゼンテーションソフトを使うことで、離れた場所においてもグループで協働作業を進めたり、お互いの意見を共有したりする。これにより、多様な視点に触れ、コミュニケーション能力や問題解決能力を向上させることを目指す。</p> <p>情報を適切に選択・判断し、活用する情報活用能力を育成する上でも不可欠であり、インターネット上の膨大な情報の中から信頼できる情報を見極める力や、著作権、情報モラルといった情報社会で生きる上で必要なスキルを実践的に学ぶことを目指す。</p>	<p>・学習指導要領及び中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」(令和3年1月)等の内容並びにこれらに引き続き政府の議論も踏まえ、1人1台端末及び高速大容量の通信ネットワーク等を通じて実現を目指す学びの姿を記載する。</p>
②GIGA第1期の総括	<p>GIGAスクール構想第1期では、端末が児童生徒の手元に渡ることで、個々の学習進度や理解度に応じた学習が可能となった。インターネットを通じた情報収集や、データ分析、表現活動に端末を活用することで、児童生徒が自ら課題を見つけ、深く探究する機会が増えた。</p> <p>ICT機器の整備は進んだものの、実際の授業での活用頻度や活用方法には、教員による差が大きく、全ての学校や教員がICTを十分に使いこなせているわけではない状況が見られる。継続的な研修やサポート体制の充実を進めていく。</p>	<p>・①も念頭に、令和5年度までの間にGIGAスクール構想の実現に向けて実施してきた端 末と通信ネットワークの整備や、これらを活用した学びの実践のための取組等の総括を行い、その結果を記載するとともに、明かになった課題については、その解決策とともに記載する。</p>
③1人1台端末の利活用方策	<p>【1人1台端末の活用】</p> <p>アダプティブラーニング教材の活用 AIが児童生徒一人ひとりの学習履歴や理解度に合わせて最適な問題や解説を提示する教材を導入し、きめ細やかな個別指導を実現する。</p> <p>デジタルドリル・問題集 習熟度に応じた問題を自動生成・採点するデジタルドリルを活用し、反復学習や苦手分野の克服を効率的に行う。</p> <p>協働的な学びの深化 オンライン共同編集ツールなどを活用したグループワークやプレゼンテーションを活用し、児童生徒間のコミュニケーションや協働学習を進める。</p> <p>【学びの保障(臨時休業等の緊急時・不登校対策)】 共同編集ツールを活用し、グループでの文書作成、プレゼンテーション資料作成、アイデア出しなどをリアルタイムで行い、協働作業の効率を高める。</p> <p>オンライン会議ツールの活用を用いて(Google Meet,Zoom)、児童生徒との学習や、グループ内でのディスカッション、発表練習などを行う。様々な事情により教室で学ぶことができない児童生徒に対して、オンラインでの授業配信も続ける。</p>	<p>・①及び②を踏まえ、端末の利活用方策を記載する。その際、1人1台端末の活用、個別最適・協働的な学びの一体的な充実、学びの保障の視点に触れて方策を記入する。</p> <p>端末の利活用の前提として、端末の整備・更新により、児童生徒向けの1人1台端末環境を引き続き維持することを明記する。</p>

※この計画は「公立学校情報機器整備事業に係る各種計画の策定要領」の15ページを参考に作成。